

都市の家族における親子関係に関する一研究

広島修道大学 春日 耕夫

(1) 本報告は、都市の家族の親子関係に関する実証的研究の中間報告を中心とする。報告者は、親子関係を研究するにあたって、単に親子関係だけを孤立的にとりだして研究するといったような研究には賛成しない。親子関係は、家族内の他の諸関係とのかかわりにおいて研究しなければならず、更にこれらは、より広い社会構造とのかかわりにおいて研究されなければならない、というのが、報告者の基本的な認識である。(なお、本報告では、「家族内の他の諸関係」のうち、子どもの両親の、夫と妻としての関係——夫婦関係——のみをとりあげて分析するにとどめる。)

(2) 研究の枠組みとして、①社会構造の中における家族の位置の分析のための枠組み、②親子関係の分析のための枠組み、③両者の媒介項として、夫婦関係の分析のための枠組み、を用意する。

(3) 社会構造の中における家族の位置を分析するために、①家族の階層的 position、②家族の地理的移動性、の2つを基準として、図Ⅰのような分析枠を用意する。

(4) 親子関係を分析するために、①父と子の間の companionship の程度、②母と子の間の dependence-independence の程度という2つの基準をとり、図Ⅱのような分析枠を用意する。

(5) 社会構造の中での家族の位置と、親子関係との間の媒介項として、夫婦関係を分析するための枠組みを用意する。即ち、①夫と妻

の間の companionship への志向性と、②職業的上昇志向性という2つの基準をとり、図Ⅲのような分析枠を用意する。

(6) 報告は、以上の3つの分析枠に基づいて、社会構造の中における家族の位置、夫婦関係、および親子関係という、三者の間に見出される関係を、実証的研究を通して明らかにすることを目的とする。

(7) 報告に用いる資料は、今夏の広島市内における親子関係調査の結果である。調査対象者は、約300の家族の夫(父)と妻(母)である。なお、今回の調査では、対象を、3~4歳の幼児のいる家族に限定している。

